

平成24年2月8日(水)

# 平成24年3月期 第3四半期 決算説明資料

## 株式会社 カネカ

もっと、驚く、みらいへ。

**Kaneka**

• 業績概要	P. 3
• 主要指標	P. 4
• 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況	P. 5
• 連結貸借対照表	P. 12
• 連結キャッシュ・フロー計算書	P. 13
• 海外売上高	P. 14
• 為替変動の影響	P. 15
• 設備投資・減価償却費 / 研究開発費	P. 16
• 業績予想	P. 17
• トピックス	P. 18

(平成24年3月期 第3四半期決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 2参照)

(単位：億円)

	23年3月期 第3四半期累計	24年3月期 第3四半期累計	増減額	今回修正 通期予想
売上高	3,395	3,519	124	4,700
営業利益	170	95	△75	140
経常利益	172	90	△81	130
四半期純利益	104	30	△74	55
為替レート (円/US\$)	86.84円	78.98円		77.00円
為替レート (円/EUR)	113.27円	110.63円		100.00円
国産ナフサ (円/KL)	45,800円	55,100円		52,000円 (第4四半期)

◎ 売上高は前年同四半期連結累計期間（以下、前年同四半期）に対して+124億円・3.6%の増収となりました。

◎ 利益は前年同四半期に対して営業利益で△75億円・△44.4%、経常利益で△81億円・△47.3%、四半期純利益は、特別利益として投資有価証券売却益2,294百万円、特別損失として事業構造改善費用等3,570百万円を計上したことに加え、本年4月に実施される法人税率変更に伴い法人税等調整額が946百万円増加したことなどにより、△74億円・△71.2%の、それぞれ減益となりました。

	23年3月期 第3四半期累計	24年3月期 第3四半期累計
・ 売上高営業利益率	5.0%	2.7%
・ 売上高経常利益率	5.1%	2.6%
・ 売上高四半期純利益率	3.1%	0.9%
・ 1株当たり四半期純利益	30.77円	8.87円
・ ROE (年換算)	5.6%	1.6%
・ ROA (年換算)	5.2%	2.7%

	23年3月期末	24年3月期 第3四半期末
・ 自己資本比率	55.4%	53.0%
・ 1株当たり純資産	743.88円	712.22円
・ 有利子負債	666億円	713億円
・ D/Eレシオ	0.26	0.30

# 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 第3四半期決算短信 【添付資料】P. 12・13参照)

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	23年3月期 第3四半期累計	24年3月期 第3四半期累計	増減額	23年3月期 第3四半期累計	24年3月期 第3四半期累計	増減額
化成品	63,741	69,337	5,595	1,762	2,068	305
機能性樹脂	51,822	52,831	1,009	6,214	4,591	△ 1,622
発泡樹脂製品	45,226	44,148	△ 1,078	5,175	3,499	△ 1,676
食品	92,974	98,831	5,857	6,351	4,058	△ 2,292
ライフサイエンス	34,594	35,121	527	6,330	5,943	△ 387
エレクトロニクス	30,325	28,604	△ 1,721	△ 3,761	△ 4,513	△ 751
合成繊維、その他	20,848	23,031	2,183	947	1,193	245
調整額	—	—	—	△ 6,028	△ 7,391	△ 1,363
計	339,533	351,907	12,374	16,992	9,450	△ 7,542

◎ 売上高は、化成品、機能性樹脂、食品、ライフサイエンス、合成繊維、その他の5セグメントは増収となりましたが、発泡樹脂製品、エレクトロニクスの2セグメントは減収となりました。

◎ 営業利益は化成品、合成繊維、その他の2セグメントが増益、機能性樹脂、発泡樹脂製品、食品、ライフサイエンス、エレクトロニクスの5セグメントは減益となりました。

# 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 第3四半期決算短信 【添付資料】P. 2参照)

◎当期の事業セグメント別の状況は以下の通りです。

## ・化成品事業

塩化ビニール樹脂は、国内市場向けの販売数量が前年同四半期より増加し、販売価格の修正にも注力しましたが、原燃料価格の上昇及び円高の影響を受けました。塩ビ系特殊樹脂は、国内市場向けの販売数量が増加するとともにコストダウンなども寄与しました。か性ソーダは、国内市場向けの需要が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は69,337百万円と前年同四半期と比べ5,595百万円(8.8%増)の増収となり、営業利益は2,068百万円と前年同四半期と比べ305百万円(17.3%増)の増益となりました。

## ・機能性樹脂事業

モディファイヤーは、国内市場・海外市場ともに需要が低調に推移した中で、製品差別化力の向上などにより増収を確保し、コストダウンなどの収益体質強化にも注力しましたが、原燃料価格の上昇及び円高の影響を強く受け減益となりました。変成シリコンポリマーは、国内市場・海外市場の建築関連需要が低調に推移した中で、国内向けの販売数量が増加、欧州及び北米向けも販売数量が前年同四半期を上回り、原燃料価格の上昇及び円高の影響を吸収して増収増益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は52,831百万円と前年同四半期と比べ1,009百万円(1.9%増)の増収となり、営業利益は4,591百万円と前年同四半期と比べ1,622百万円(26.1%減)の減益となりました。

# 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 第3四半期決算短信 【添付資料】P. 2, 3参照)

## ・発泡樹脂製品事業

発泡スチレン樹脂・成型品は、東日本大震災による東北・関東地域の水産分野の需要低迷の影響を強く受けました。押出發泡ポリスチレンボードは、国内住宅用の販売数量が環境政策効果により大幅な需要増となった前年同四半期を下回りましたが、原燃料価格上昇に対応した製造コストダウンと経費削減にも徹底して取り組みました。ビーズ法発泡ポリオレフィンには、日本の震災やタイの洪水災害に伴う自動車分野のサプライチェーン停滞などの影響を受け、日本・アジア・欧州市場ともに需要が低迷しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は44,148百万円と前年同四半期比1,078百万円(2.4%減)の減収となり、営業利益は3,499百万円と前年同四半期と比べ1,676百万円(32.4%減)の減益となりました。

## ・食品事業

食品は、新製品の拡販などにより販売数量が増加し、販売価格の修正やコストダウンにも注力したものの、油脂等原料価格の上昇や顧客の低価格志向化を背景とした安価品の販売比率の増加の影響を強く受けました。

以上の結果、当セグメントの売上高は98,831百万円と前年同四半期と比べ5,857百万円(6.3%増)の増収となり、営業利益は4,058百万円と前年同四半期と比べ2,292百万円(36.1%減)の減益となりました。

# 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 第3四半期決算短信 【添付資料】P. 3参照)

## ・ライフサイエンス事業

医療機器は、インターベンション事業の販売が順調に拡大しました。医薬バルク・中間体は、販売数量が低調に推移しました。機能性食品素材は、米国市場はじめ欧州・日本市場での高機能品の販売数量が増加するとともに、徹底したコストダウンに注力しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は35,121百万円と前年同四半期と比べ527百万円(1.5%増)の増収となり、営業利益は5,943百万円と前年同四半期と比べ387百万円(6.1%減)の減益となりました。

## ・エレクトロニクス事業

液晶関連製品は、新規用途の拡大などにより販売数量が増加したものの、超耐熱性ポリイミドフィルムは、日本の震災及びタイの洪水災害によるサプライチェーン停滞の影響や世界的な景気後退懸念に伴うエレクトロニクス製品市場の需要不振により、販売数量が前年同四半期を下回りました。太陽電池は、国内市場向けの販売数量は着実に増加しましたが、欧州市場の需要低迷により海外向け販売数量が減少するとともに、競争の激化に伴う販売価格下落及び円高の影響を受けました。太陽電池関連部材は海外向けの販売数量が低調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は28,604百万円と前年同四半期と比べ1,721百万円(5.7%減)の減収となり、営業損失は4,513百万円となりました。



# 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 第3四半期決算短信 【添付資料】P. 3参照)

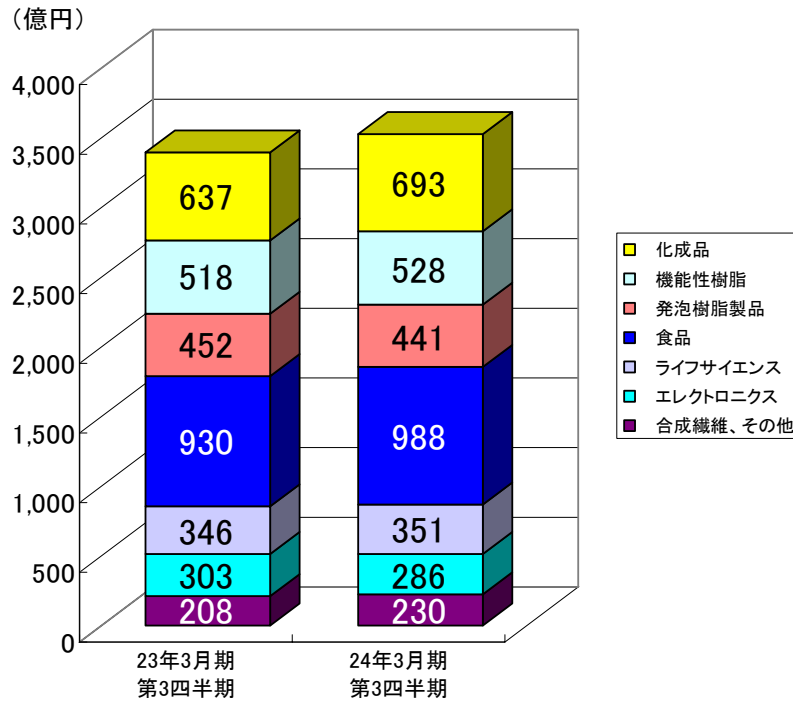
## ・合成繊維、その他事業

合成繊維は、円高及び原燃料価格の上昇の影響を強く受けましたが、海外市場の需要が拡大し、販売数量が増加するとともに、販売価格の修正やコストダウンなどの収益改善策に注力し、増収増益となりました。また、その他事業についても増益となりました。

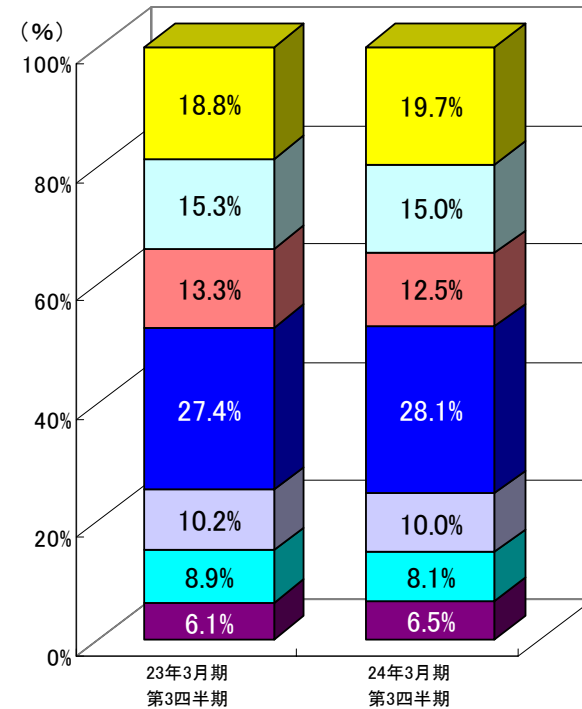
以上の結果、当セグメントの売上高は23,031百万円と前年同四半期と比べ2,183百万円(10.5%増)の増収となり、営業利益は1,193百万円と前年同四半期と比べ245百万円(25.9%増)の増益となりました。

# 事業セグメント別売上高

## セグメント別売上高



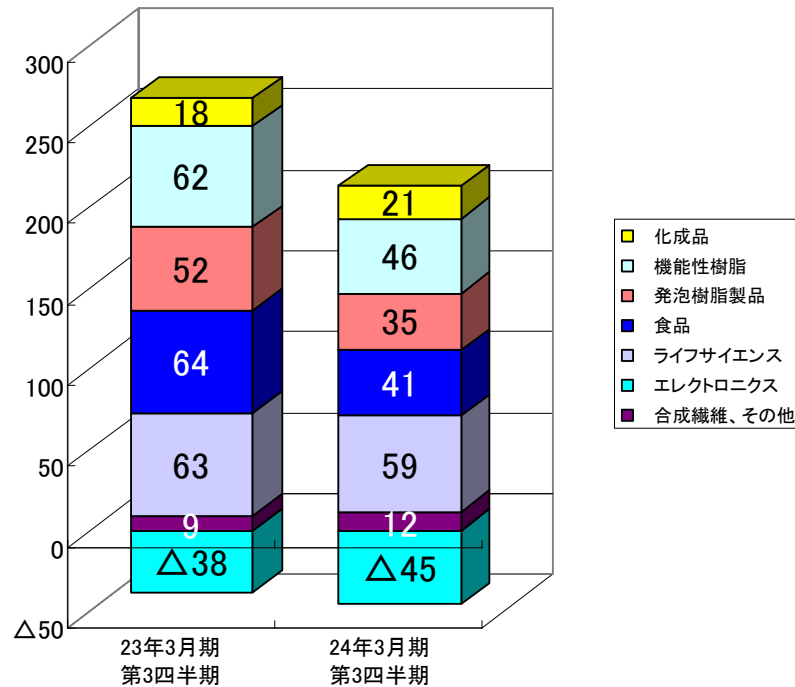
## セグメント別売上高: 構成比



# 事業セグメント別 営業利益

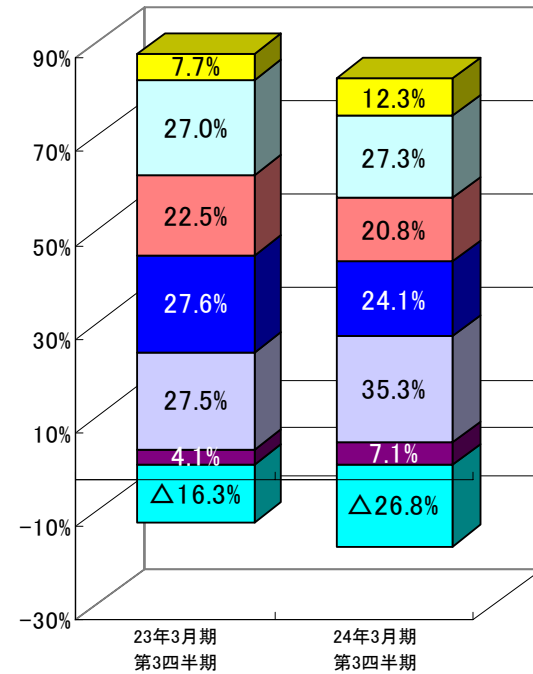
## セグメント別営業利益

(億円)



## セグメント別営業利益：構成比

(%)



(平成24年3月期 第3四半期決算短信【添付資料】P. 6・7参照)

(単位：億円)

		23年3月期末	24年3月期 第3四半期末	増減額
資産	流動資産	2,224	2,279	55
	固定資産等	2,327	2,262	△65
	合計	4,551	4,541	△10
負債	有利子負債	666	713	47
	その他	1,267	1,326	59
	合計	1,933	2,039	106
純資産	自己資本	2,521	2,405	△116
	少数株主持分 他	97	97	0
	合計	2,618	2,502	△116
負債、純資産 合計		4,551	4,541	△10
D/Eレシオ		0.26	0.30	

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したもの

- ◎ 総資産は、前連結会計年度末に比べて10億円減の4,541億円となりました。
- ◎ 有利子負債残高は、47億円増加し713億円となりました。
- ◎ 純資産は、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の減少等により116億円減の2,502億円となりました。

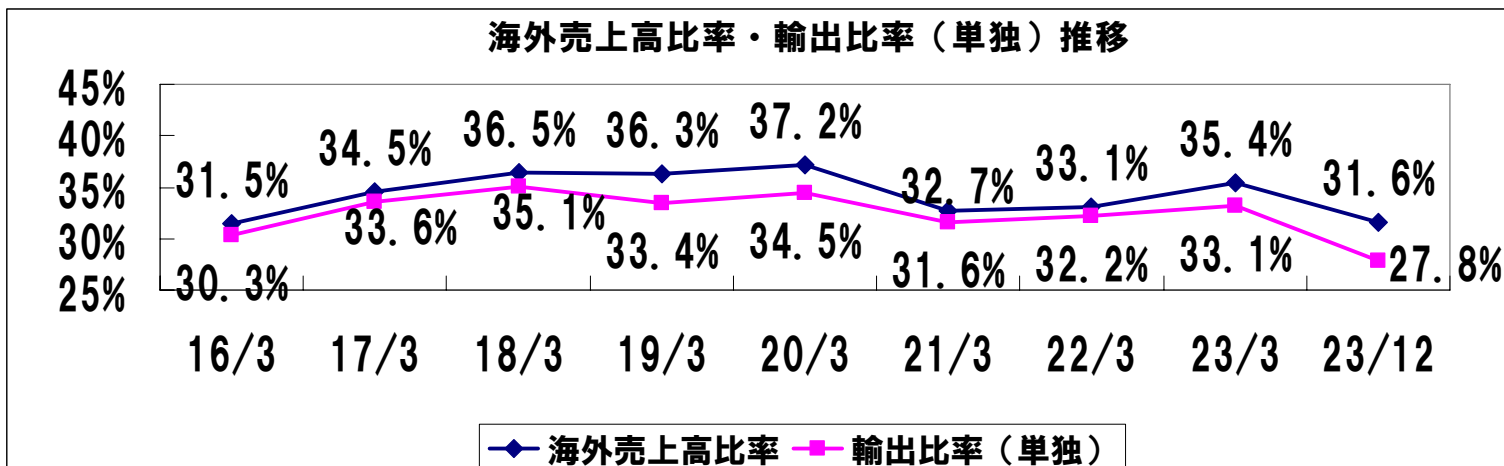
# 連結キャッシュ・フロー計算書

(平成24年3月期 第3四半期決算短信【添付資料】P. 10・11参照)

(単位：億円)

	23年3月期 第3四半期累計	24年3月期 第3四半期累計	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	258	83	△ 175
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 236	△ 206	31
フリー・キャッシュ・フロー	21	△ 123	△ 144
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 52	△ 5	47
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額)	△ 32	△ 124	△ 92
現金及び現金同等物の四半期末残高	373	245	△ 128

- ◎ 当第3四半期連結累計期間の営業活動による資金の増加は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により83億円となりました。
- ◎ 投資活動による資金の支出は、有形固定資産の取得による支出等により206億円、財務活動による資金の支出は、社債の償還による支出や配当金の支払額等による資金の減少と、借入の実施による収入等による資金の増加により5億円となりました。
- ◎ この結果、現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高は、245億円となりました。



（単位：億円）

	23年3月期 第3四半期累計	24年3月期 第3四半期累計	増減額	増減率
アジア	519	471	△ 48	△9.3%
北米	218	204	△ 14	△6.6%
欧州	319	313	△ 6	△2.0%
その他	132	123	△ 9	△7.1%
海外売上高計 （海外売上高比率）	1,189 (35.0%)	1,111 (31.6%)	△ 79	△6.6%

◎ 海外売上高は為替の影響（△74億円）もあり、1,111億円と前年同四半期に比べて6.6%減となりました。海外売上高比率は31.6%と、前年同四半期の35.0%を下回りました。

## 【期中平均レート】

(単位:円)

	23年3月期 第3四半期累計	24年3月期 第3四半期累計
米ドル	86.84	78.98
ユーロ	113.27	110.63

## 【通貨別影響額】

(単位:億円)

	売上高	営業利益
米ドル	△62	△23
ユーロ	△6	△1
その他	△7	△0
合計	△74	△25

- ◎ 為替は対ドル、対ユーロともに円高となり、前年同四半期に対して売上高で△74億円、営業利益で△25億円の影響を受けました。

# 設備投資・減価償却費 / 研究開発費

(単位：億円)

	23年3月期 第3四半期累計	24年3月期 第3四半期累計
設備投資	213	255
減価償却費	209	216
研究開発費	131	148



(平成24年3月期 第3四半期決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 4参照)

- ◎ 当連結累計期間における当社グループの各事業は、東日本大震災やタイの洪水災害に伴う需要の減少に加え、債務危機問題の深刻化を背景とした欧州の景気後退、原燃料価格の高止まりと円高の進行の影響を強く受けております。第4四半期連結会計期間の事業環境は、日本における震災復興需要の拡大が期待される一方、欧州経済の悪化や米国の経済回復の停滞、中国・アジア諸国など新興国の景気減速の懸念から世界的な景気の下振れリスクを抱え、不安定な国際株式・金融市場や為替相場の動向を含め、世界経済の先行きは一段と不透明感を増しております。
- ◎ このような状況下、当社グループは、各事業において、販売数量増大のための施策及び製造コストや経費の削減、円高対策等の収益強化策に徹底して取り組み、業績の回復に全力を挙げておりますが、通期の連結業績予想につきましては、前回予想を下回る見込みとなりました。
- ◎ なお、第4四半期の為替レート、原燃料価格につきましては、77円/米ドル、100円/ユーロ、国産ナフサ価格52,000円/KLを想定しております。

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想	4,850	175	155	75
今回修正予想	4,700	140	130	55
増減額	△150	△35	△25	△20
増減率(%)	△3.1%	△20.0%	△16.1%	△26.7%
前年実績	4,538	212	210	116

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- **ポリエステル系非ハロゲン難燃強化耐熱コンパウンドを開発** - 非ハロゲンでは世界初の高耐熱性能 - 1月31日
- **自己株式の取得状況および取得終了に関するお知らせ** - 1月25日
- **再生・細胞医療関連事業を積極展開** - かながわバイオ医療産業特区の病院開設会社の経営権取得 - 1月13日
- **PTAバルーンカテーテル、テルモ株式会社へ国内市場向けにOEM供給を開始** - 12月27日
- **液体苛性ソーダの価格修正について**
  - 来年1月16日出荷分より、キログラム当たり12円以上(固形換算)の値上げ — 12月22日
- **鹿島電解(株)、鹿島塩ビモノマー(株)再編の件** — 12月16日
- **インドで塩素化塩ビ樹脂(CPVC)事業展開を加速**
  - 事業化検討のため初期合併契約を締結し、合併会社を設立 — 12月6日
- **メガソーラー向け太陽電池・ガラス封止型モジュールを発売開始** — 12月1日
- **銅エレクトロプレーティング技術を用いた高効率ヘテロ接合シリコン太陽電池を開発** — 11月28日
- **ドイツQ-Cells SEとカネカの太陽電池特許での契約締結について** — 11月24日
- **高耐熱性炭素繊維強化複合材料向け新規熱硬化型イミド樹脂を開発**
  - 航空・宇宙機の耐熱構造部材への適用に向けた評価試験を開始 — 11月9日
- **株式会社カネカコリアを設立・開所式を開催** — 11月8日
- **タッチパネル向けITO導電フィルムを開発** — スマートフォン向けに新規素材を投入 — 11月2日
- **自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ** — 10月28日
- **マーガリン100%でバターの先味と後味を備えた練り込みマーガリンを開発**
  - コンセプトルシルバーと命名し、本年10月より販売開始 — 10月25日

**kaneka**